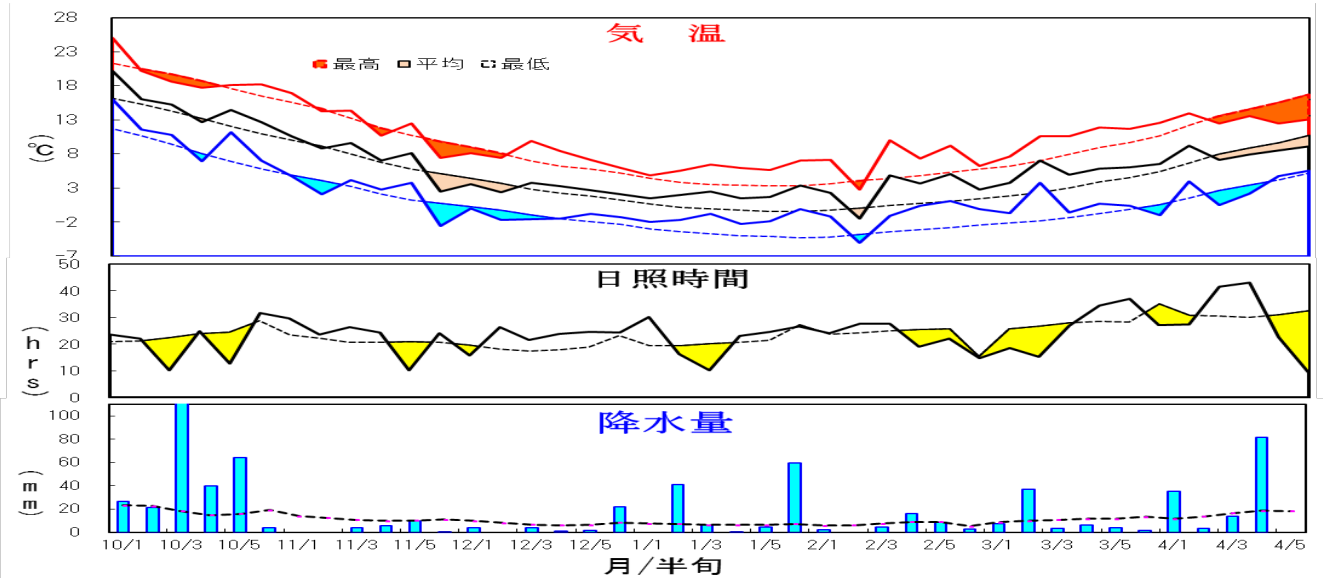


= 4月上旬まで高温, 中旬やや低温, 生育にあった適期追肥・防除を! =

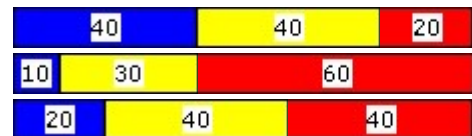
1 気象経過 (10月～古川)



[1か月予報] 4月23日発表

平均気温は、平年並または高い確率とも40%, 週別気温は、高い確率1週目20%, 2週目40%, 3~4週目40%

月	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	日照時間 (h)	降水量 (mm)
3月	5.8	10.9	0.4	60	170
平年差	2.2	2.4	1.2	▲6	▲3
前年差	0.8	0.3	0.8	▲6	▲14
4月上旬	8.2	13.2	2.2	39	69
平年差	0.8	0.3	0.1	13	7
前年差	2.6	2.2	2.1	25	2
4月中旬	8.2	13.1	3.5	95	66
平年差	▲1.1	▲2.0	▲0.3	60	5
前年差	▲0.9	▲3.1	1.5	74	▲19



- ・3月～4月上旬は、最高、最低気温とも平年及び前年より高めで4月中旬がやや低温に経過した。
- ・日照時間は、3月がやや寡照で4月上旬～中旬が多照に推移した。
- ・降水量は、3月が平年より若干少なく、4月はやや多雨となった。
- ・一か月予報では、4月下旬～5月上旬は並みからやや高温でそれ以降高温傾向と予想されている。

2 生育状況：4月10日頃の生育経過 (古試作況試験圃・県内普及センター調査圃)

- ・草丈は、大麦、小麦とも4月10日調査では、平年よりかなり長かった。
- ・暖冬で生育が進み、生育ステージが早まったため、大麦、小麦で平年同期比56～67%程度であった。
- ・減数分裂期は、中旬、下旬播種で大麦が4/9, 4/17, 小麦で4/18, 4/23といずれもかなり早まった。

[古試：10月17日, 30日播種]

種類	播種期	草丈			茎数			葉数			幼穂長			減数分裂期		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/m ²)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本年 (mm)	前年差 (mm)	平年差 (mm)	本年 (月/日)	前年 (月/日)	平年 (月/日)
大麦(平均値)	10/17	45.5	216	192	526	42	56	11.1	1.6	1.8	25.8	17.4	17.5	4/9	4/22	4/22
	10/30	31.1	178		644	51		9.3	1.0		10.1	5.3		4/17	4/25	
小麦(平均値)	10/17	37.3	131	144	619	49	67	10.5	1.3	1.1	9.4	5.3	3.8	4/18	4/29	4/28
	10/30	28.9	147		731	54		8.7	0.9		7.3	3.9		4/23	5/1	

- ・県内の圃場では、播種期が遅いため依然として生育は古試より遅れていると思われる。
- ・草丈は、古試同様に大麦、小麦とも平年及び前年よりかなり長くなっている。
- ・茎数は、大麦では前年・平年を下回っているが、小麦では多くなっている。
- ・幼穂長は、大麦・小麦とも前年及び平年同期より長くなっている。



[県内普及センター調査圃：4月10日頃の生育]

種類	播種期	草丈			茎数			幼穂長		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/m ²)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (mm)	前年差 (mm)	平年差 (mm)
大麦(平均値)	11月9日	28.8	116	120	509	56	90	7.4	4.2	3.1
小麦(平均値)	11月8日	30.1	175	153	922	147	103	4.9	3.4	3.0

3 今後の管理

(1) 追肥

- ・ほとんどの圃場では減数分裂期を過ぎていると思われる。(幼穂長 大麦で3cm, 小麦で2~5cm程度)
- ・小麦の追肥が主体となり、効果は一穂粒数の増加と登熟歩合の向上が目的となる。
- ・穂揃期の追肥に関しては、大麦では硬質麦となるので実施しない。

減数分裂期追肥の開始時期目安

シラネコムギ, ゆきちから, あおばの恋 止葉葉耳間長±0mm以上の茎が4~5割

品 種	追肥の効果	減数分裂期 (幼穂長30mm) 4月中旬~下旬	穂揃期 (80~90%出穂) 5月上旬~中旬
シラネコムギ	一穂粒数の増加 登熟の良化 タンパク含有量の増加	窒素5kg/10a	窒素2.5kg/10a
ゆきちから・夏黄金		窒素5kg/10a	窒素5kg/10a

(2) 排水対策

- ・5月に出穂期を迎えるが、明渠がきちんと効いているか等排水対策に万全を期す。
- ・6月の成熟期になると、湿害が顕著になるので、早めに明渠等の手直し作業を実施する。

(3) 赤かび病の防除 (病害虫防除所サイトより)

- ・赤かび病は開花期前後にかけて降雨が続くと発生が多くなる。
- ・1回目が開花始期~開花期, 2回目はその7~10日後で、降雨が続く場合は追加防除が必要である。
- ・「シラネコムギ」では開花期が早くなるほど発病リスクが高まる。
- ・「夏黄金」の防除は、「ゆきちから」と同様に3回を基本とする。

【参考】古試における小麦「シラネコムギ」と大麦「シュンライ」の生育と幼穂発育状況 (4月10日)



10月17日播種

左:小麦

右:大麦



10月30日播種

左:小麦

右:大麦